



カネー!

あ、あれ...え...？



吹雪・・・そういうわけで
自分は時間を持って余しているんだ・・・。

疲れているところすまないが・・・
エッチな事でもして
汗を流してみないか？

.....
はい.....司令官。
何をすれば良いですか？



うぐっ
うぐっ
司令官
ちゃんと入りました。

それでは……動きますね……

ああ……よろしく頼む。



あーっ
くっ……いきなり随分激しく
動くじゃないか吹雪……
良い感じだぞ……っ。

……当然です……司令官の
おち○ちんを……あ。
気持ち良くさせてもらって
いるんですから……
頑張らないと……

ふんふん

そ、そうか……
うぐっ……!吹雪……
お前のその頑張りに
俺のチ○ポも応えたい
みたいだ……遠慮なく
出させてもらおうぞ……っ!



すまんな吹雪
ついついたくさん
出し過ぎてしまったみたいだ。

いえ
全く問題ありません

ふっ・・・そうか・・・
なら次は自分でほしいから
そのまま横になってくれないか？

はい・・・
わかりました・・・

だっ

ぽん

ぷん！

ぷん！

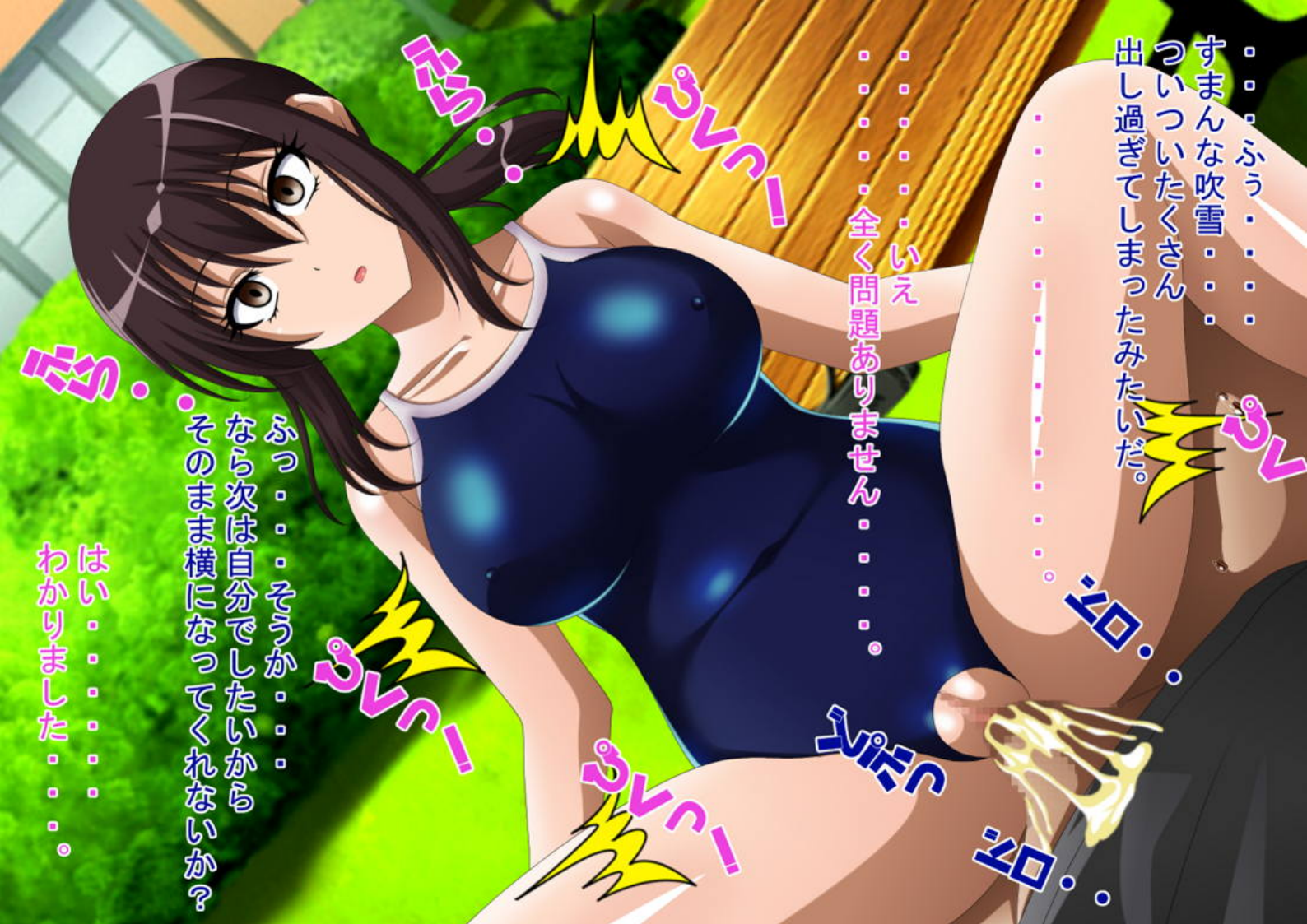
ぷん！

びん

びん

びん

ぷん



さて・・・と。
とはいえ、こんな場所だ・・・
誰かが通りかかる前に
さっさと終わらせないと。

は・・・・・・・・い・・・・・・・・っ・・・・・・・・

ガサッ

ゴキョ

ジュジュジュジュジュ

ジュジュジュジュジュ

ん？・・・やれやれ
すごいものだな・・・
まだまだ全然からみついてくるな
このスケベな膣は・・・

待っている・・・ご希望通り
またすぐに自分の精子を
食らわせてやるからな。



は……あつ……
ぐつ。

良いぞ、その調子でもっと
からみつけるんだ……
たっぷりと自分のを
こすり付けてやるからな……

あ……
っは……
ん……

うぐっ……全く……
気持ちの良い
オマ○ヨだ……
も、もうイク……
また出させてもらいませ

クニヤ
クニヤ
クニヤ

クニヤ
クニヤ
クニヤ
クニヤ

クニヤ



はあ
あ
はあ
あ
はあ
あ
はあ
あ

はあ
あ
はあ
あ
はあ
あ
はあ
あ

かき
き

うおおおおおっ

・ ・ ・ 悪かったな、吹雪。
走り込みの最中に
邪魔をしてしまった。
おかげで自分も良い汗を
かくことが出来た。

・ ・ ・ いえ ・ ・ ・
司令官のお役にたてたのなら
・ ・ ・ 何よりです ・ ・ ・

それじゃ ・ ・ ・ もう走り込みに
戻ってくれても構わないぞ。
自分はまだヘトヘトだから
休ませてもらう事にするよ。

・ ・ ・ はい
・ ・ ・ ありがとうございます
・ ・ ・ 司令官。

カチカチッ

ソッ
ソッ
ソッ

ソッ

おっと・・・ちょっと待ってくれ能代

はい・・・？

え？

カチッ



その前に・・・起きたばかりで
そんなかつこうをみせられたせいで
すっかりこうなってしまうてな。

か〜ん

こんなに興奮したままでは
今日の活動に支障がでるのでな・・・
おさめてくれないか？

・・・そうですか

・・・それは仕方ありませんね。

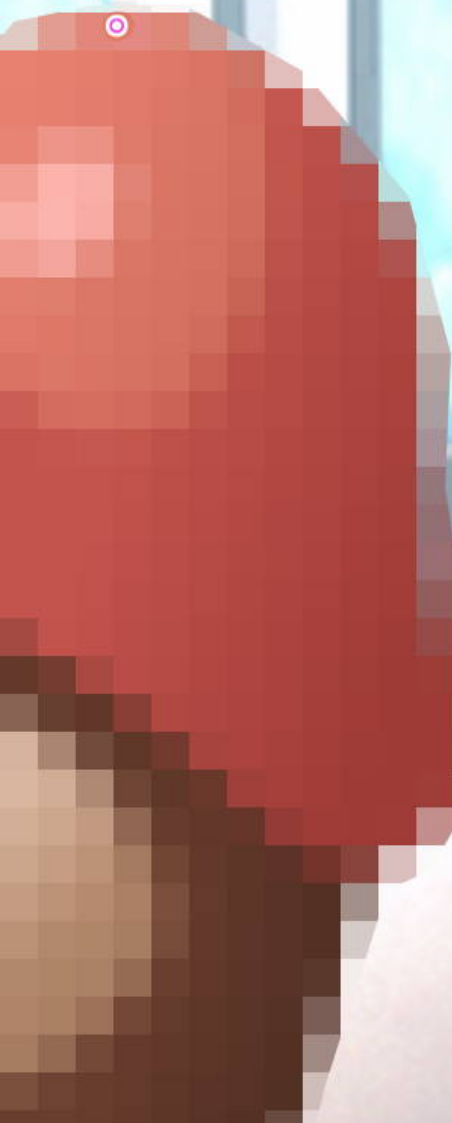
・・・了解しました。

・・・この能代・・・

喜んでお相手させていただきます・・・

んんん

んんん



ほら、入ったぞ……。
こうなるともう出し終えるまでは
引き抜けないからな……っ。

……はい……提督……
望むところです……。

奥にまで入ってるんだ……
たっぷりとお前の肉で
搾り取ってくれよ……。
ほら、膣肉をしめつけるんだ。

……はい……
……わかりました……。

じゅぽうっ

ニチユ……

ニチユ……

ぐっ！

ぐっ！





ふっ・・・良いぞ能代。
凄いしめつけをするんじゃないか・・・。

まったたく・・・こっちの方も有能な
秘書艦をもつと提督としても
鼻が高いというものだ・・・くっ。

ぐ・・・んっ・・・

かへっ
ざんげん

かへっ
ぽん

ズッチャ
ズッチョ

ズッチャ
ズッチョ

ぎゅっ

ぎゅっ

ズッチャ

ズッチャ
ズッチョ



かんぽっ

あ
は

うお

っ?
!

あ

ジュルルルル

ジュルルル

ジュルルル

ジュルルル

ジュルルル

(ふむ・・・やはりお人形化すると
言う事もすんなり聞いてくれるな・・・)

はあ...

(まあ・・・せっかくだ、いつもの能代とは
少し違う感じの能代を見てみたくもある・・・
よし・・・)

能代・・・

はい。

今度はお前が上になって
淫乱になってエッチな言葉を
言いながら腰を振ってみるんだ。

はあ...

ズロム
ダラ...

ズロム
ダラ...



あんっ！♡あんっ！
あんっ！♡あはっ！♡ああんっ！
提督のオチ○ポ・・・
とても素晴らしいですっ♡

能代・・・エッチな声が
とまりませえんっ♡
ひあんっ！♡あうっ！♡きやはっ！♡

グツッ

グツッ

グツッ

グツッ

おキッ！♡

格好い！♡

擦れる度にオチ○ポが
ビクビクして・・・きやんっ！
とっても可愛いですよ♡
ふふっ♡ほらっ♡ほらっ♡

あ・・・ああ・・・そうか・・・。
(ふむ・・・こんな感じに
なるのか・・・思ったより激しいな。
それとも能代が本当にエッチなのか?)



気持ち良い・・・っ！
提督のオチ○ポ大きすぎて
・・・あんっ！♡能代のオマ○コ
おかしくなっちゃう！♡あはっ♡

提督・・・♡いつでも出したいときに
お出しになってもらって
構いませんからね！♡はあんっ！
でもイク時は一緒に
お願いしますよ！♡
あっは！♡一緒にイって
子宮にたっぷり精子を
かけまくってください！♡

はあああっ♡気持ち良いっ♡
気持ち良いです♡
ジュッポジュッポ気持ち良いっ♡
あはあっ！♡ひいんっ！♡

ぐ・・・っ！
激しすぎるぞ能代・・・
ダメだ・・・もうっ！



あああああああああああああああああああああ
 精子来ましたっ！
 精子好きっ！
 うぐうっ・・・！お・・・おい・・・
 少しは加減をだな・・・！
 このあとプールに様子を
 見にいかなくては・・・。

あーっ！
 ぐんぐん

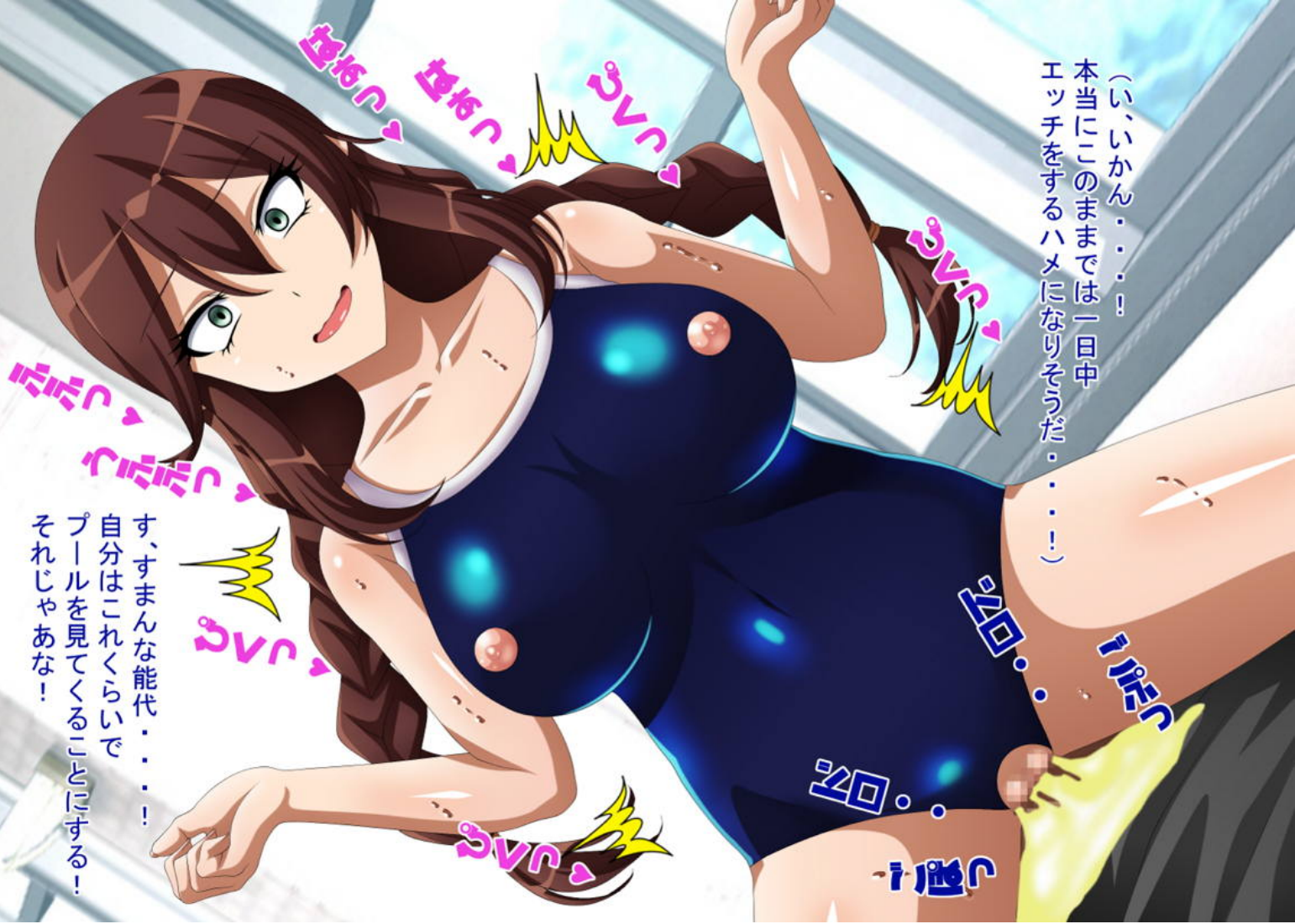
ぐんぐん
 ぐんぐん
 ぐんぐん

ブルー？様子見い？
 うふふっそんなのどうでも良いじゃ
 ありませんかあひあつ
 能代と一緒に気持ち良い事
 していきましょう？

ふふっ♡ふふふふふふふふっ♡
 気持ち良いっ♡んあつ♡
 お腹が提督で満たされて
 いきますう♡あはあああああつ♡

あーっ！
 あーっ！
 あーっ！

(いいかん・・・!!)
本当にこのままでは一日中
エッチをするハメになりそうだ・・・!!)



す、すまんな能代・・・!!
自分はこれくらいで
プールを見てくることにする!
それじゃあな!



なん.....で.....

あ.....れ.....?

カチン

カチン

すまん、白雪.....
お前のおかげですっかり
勃ってしまったんだ.....
悪いが、付き合ってもらうぞ。



うっ・・・くっ・・・!!
相変わらず大人しそうな顔をして
随分と吸い付きの良い
オマ○コだな・・・白雪っ。

ずんっー

・・・挿れた途端に随分と
濡れてきたぞ?
そんなエッチな汁を
出されるとこっちも
頑張らないといけない気分にな
って来るじゃないか。



ほら、白雪・・・聞こえるか？
お前の出してるエッチな
汁のおかげで、こんなに
音がしているぞ。・・・くっ。

真面目な白雪とは思えない
本当にいやらしい
いけないオマ○コだな・・・っ！
はあっ・・・！はあっ・・・！

うぐっ・・・！
な、なんだ・・・！？

ジュスト
ジュスト
ジュスト
ジュスト
ジュスト
ジュスト



なんだ・・・恥ずかしかったのか
自雪・・・っ！
いきなりめちやくちやに
しめつけるからだして
しまったじゃないか・・・！

あ・う

っ

ぱん

ん

...

ん

ぱん

はあ……！はあ……！
何か……不完全燃焼だな……
よし……もう一回
させてもらおうぞ……。

ぽん
ぽん

かへん

ぽん

ぽん

自分だけ気持ち良くなって
しまつてすまないな。
白雪、今度はお前も気持ち良くな
れるように頑張つてみるから
もう少し感情を
出してみてくれないか？

……感情を出す……？
すみません……司令官
……良くわかりませんが
……やってみます。

ああ……それじゃあ……
気を取り直して……。

ぽん

ぽん

よし……またつながったぞ……白雪。

……はい、司令官……
今度は満足できるよう……
自分のタイミングで……

すまん、白雪……それでは
お言葉に甘えさせてもらっ
ことにしようか……

ちゅぽんちゅぽん

かっしょん

きん

はい……たくさん擦りつけて
……たっぷり子宮に
お出してください……

良いっ・・・
気持ち良いです・・・
司令官・・・う。
オマ○コがどんどん
キツくなつてしまいます
・・・うあつ。

あはっ・・・
思い切り突かれて・・・
オマ○コが喜んでいきます・・・
司令官の精子が
早く欲しいつて・・・ああつ。

ふるんっ

ーウツウツー

ーウツウツー

ーウツウツー

はい・・・私のオマ○コ・・・
ヒクヒクしちゃっていますね・・・
これではまるで・・・
変態のよう・・・
恥ずかしい・・・あんっ。

司令官のおち○ちん・・・
すごくビクビクしてきてます。
出る・・・？
出すのですか・・・？
構いませんよ・・・はい・・・
それでは・・・
たっぷりと・・・。

かっん

かっん

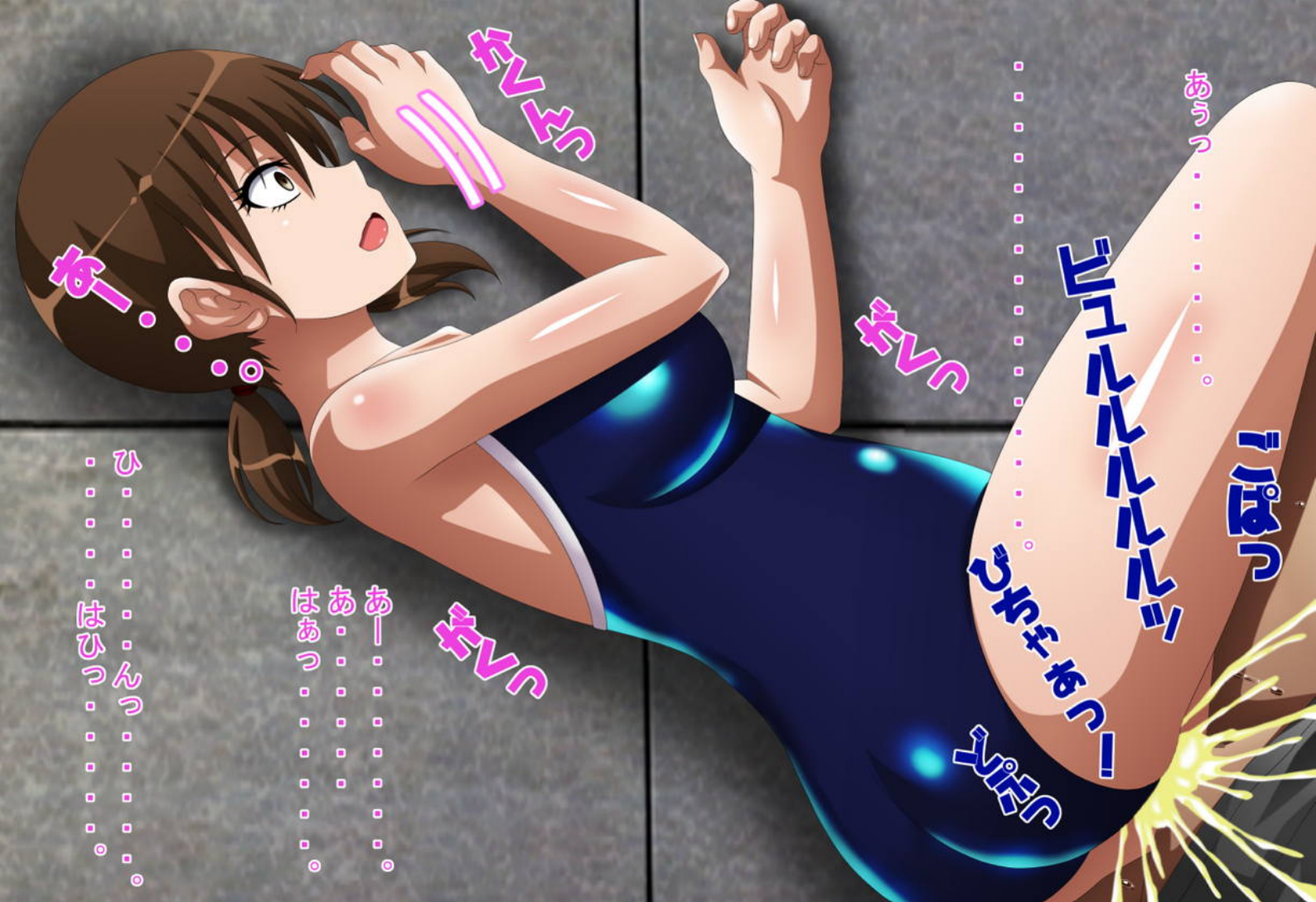
かっん

かっん

ー

ー

ー



はっ
ひ
はひっ
ひんっ
ひ

あー
あ
はあ
あ

きんぽん

きんぽん

びんぽん
びんぽん
びんぽん

びんぽん
びんぽん
びんぽん

びんぽん

びんぽん

はあ……。はあ……。
たっぷり出させてもらったぞ……。
白雪……。はあっ。はあっ。

……。そうですね……。
これだけ出せば……。
満足していただけましたか？

ああ……。はあ、はあ……。っ。
気持ち良かったぞ……。

……。それはよかったです……。
それではプール清掃に戻ります。

くっ
くっ

くっ
くっ

(って、またっいつい
やってしまった……。！
ただ様子を見に来ただけ
だったんだが……。
しかも、床も少し汚して
しまったし……。
たしか次は川内と交代すると
言っていたか。
また後で様子を見に
来ることにするか。)

（……………詰りかまっか……………）

……………

……………

んっ……相変わらず良い
フェロモン臭をだしているな
お前のココは……

「この味も……じゅるっ……
……病みつきになるものがある……」

……………



ふむ・・・
だいぶ濡れてきた・・・か。

ふっ・・・こんな風になっても
身体は正直なもの
なんだな・・・。

きん

きん

きん

きん

きん

きん

それに・・・何かエケエケしてらぬのか？

なんだ川内・・・お前もっ・・・。



やれやれ・・・少し聞くのが遅かったか・・・。

まあいい・・・これだけ濡らせば十分だ・・・。

ジュン、

それじゃ、川内ばかり良くなってないで・・・今度は自分も気持ち良くしてあげよう。

ジュン、ジュン

ジュン、ジュン

ジュン、ジュン

うん・・・わかったよ・・・提督・・・。

ジュン、ジュン

うっ……よし、入ったな……

奥にまでちゃんと
飲み込んだか……くっ。

ハッハッ

ハッハッ

ハッハッ

それじゃあ……遠慮せず
動かさせてあげようぞ。

ハッ

ハッ





.....あ.....んっ.....

コチヤッ

コチヤッ

くっ...良いぞオマ○コの中が

ぐにゅぐにゅとうねって

汁もこんなに

飛び散っているじゃないか。

コチヤッ

コチヨッ

コチヨッ

ぽるんっ♡

やれっ

びびっ

ぽるんっ♡

やれやれ...

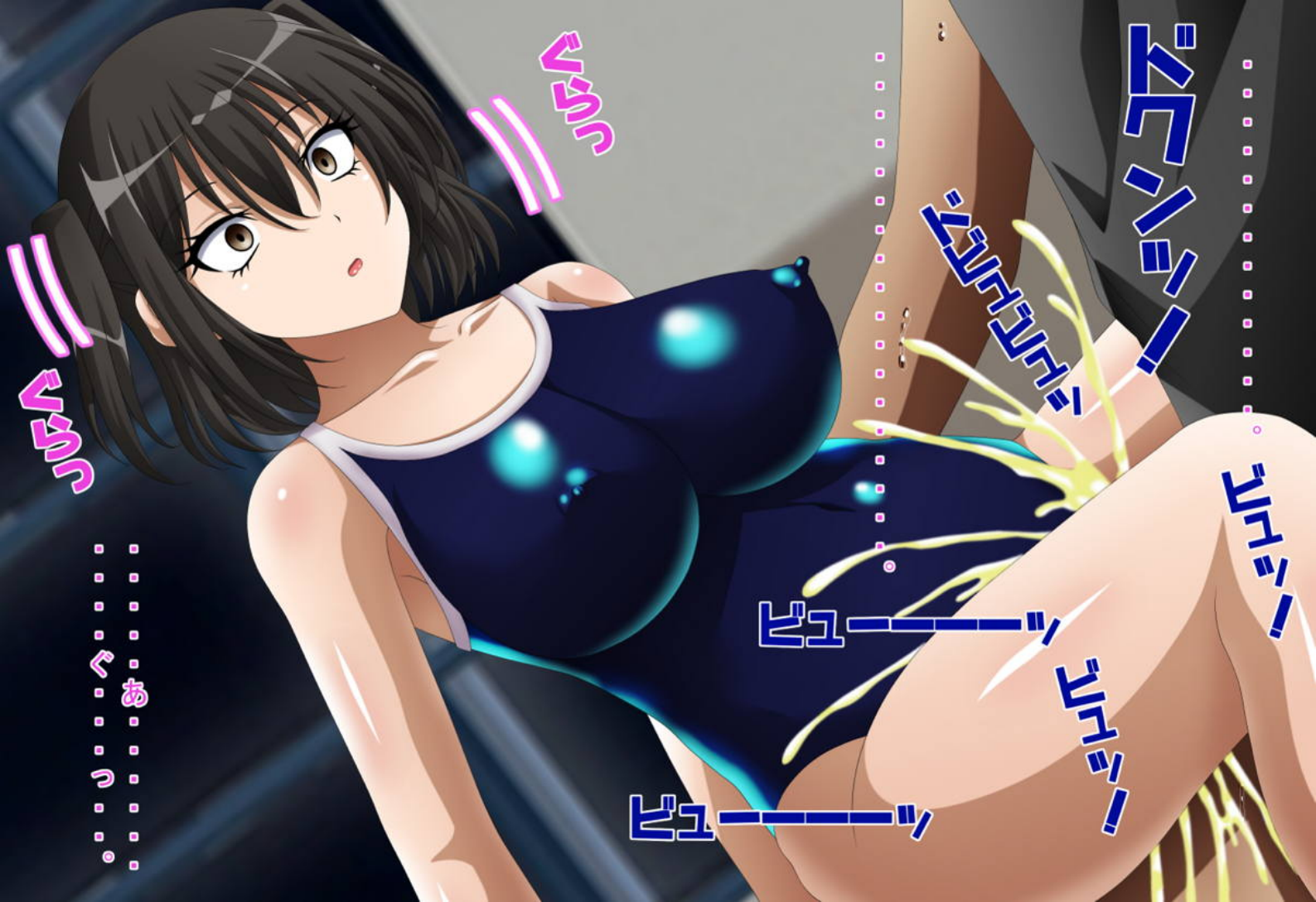
こんなにされたんじや

早速出でしましそうだな...

くっ...

一度出さず...っ...

...わかったよ...提督...



ふう。。。ふう。。。
どうだ？川内。。。
お前も気持ち良くなっているか？

。。。うん。。。
とっても。。。
気持ち良いよ。。。
気持ち良いよ。。。。

そうか、だったら嬉しそうな顔をしないとだめだぞ。ほら、ちゃんと笑顔で自分に愛情表現をしてみるんだ。

かんたん

気持ちいい

あはは♪
気持ち良いー！気持ち良いー！
気持ち良いよ。。。提督。

みっ、良いぞ。。。
さて、と。。。
それじゃあその時
もう一回お箱手して
もらおうか。

んんん

んんん

くっ・・・・良し、まだまだ
しめつけもキツいままだな。
それじゃ、動くぞ。

がじっ

あっは・・・・嬉しいねえ・・・。
提督のお子〇木・・・。
気持ち良い！・・・。

うん

ん

提督のお子〇木最っ高・・・。
・・・・あんっ。
気持ち良い！。気持ち良い！。

そうか、そんなに
気持ち良くなって
くれているなら「っちも
動きがいいがあるな。
その調子でもっと
しめつけてくれ。



私のオマ○コ...
提督のお手○ポ
大好きなんだって...
...ぐっ。

提督好き...
好き...
大好き...
大好きっ...

オマ○コの中に
提督の精子欲しくて
仕方がないよ...
いっぱい...
いっぱい...
だしてよね...
...あっは。

提督...たっ...
こすりつけて...
いつでも好きになるときに
出していいか...

んんんん

んんんん

んんんん

んんんん

んんんん

んんんん

んんんん

んんんん

んんんん

んんんん

んんんん

んんんん

んんんん

んんんん





梅屋屋ん

そんぞん

あっはっは
あははは
あははははは
もっとう欲しいよ
欲しい
欲しい
欲しい
夜戦精子欲しい

はあ...はあ...
お言葉に甘えて
出させてもらったぞ
川内
あはは...お腹が
あつたかいよ
たくさん精子だされ
ちゃったあ
提督...私
嬉しい
夜戦...
気持ち良い
夜戦...
最高

くろ...くろ...
アゲル
精子161616